

情報通信審議会 情報通信技術分科会 陸上無線通信委員会
第7回 気象レーダー作業班
議事概要(案)

1 日時

令和2年5月13日(水) 15:30~16:20

2 場所

Web会議

3 出席者(敬称略)

主 任 : 川西 哲也

主 任 代 理 : 牛尾 知雄

構 成 員 : 阿部 敏和、市川 麻里、今井 克之、岡島 健、柿元 生也、
梶原 佑介、川村 和也、小嶋 正一、清水 昭典、田中 祥次、
鷹取 泰司、田島 慶一、手柴 充博(代理)、並木 広行、花土 弘、
村上 直弘、山路 昭彦、横畑 和典、横山 悠、米本 成人、
和田 将一

オブザーバー : 城戸 克也、古賀 千科子、城田 雅一、濱中 太郎

事務局(総務省) : 棚田 課長補佐、福川第一マイクロ係長

4 配布資料

気レ作7-1 C帯サブ・ワーキング・グループにおける検討状況

気レ作7-2 DFS試験における負荷条件

気レ作参7-1 気象レーダー作業班構成員名簿

気レ作参7-2 新DFSパタンへの対応について

(令和元年5月27日付け気象レーダー作業班(第6回)資料)

5 議事概要

(1) 開会

(2) 議事

① C帯サブ・ワーキング・グループにおける検討状況の報告

中村C帯SWGリーダーが資料「気レ作7-1」に基づいて、サブ・ワーキング・グループの検討状況を報告した。

X帯サブ・ワーキング・グループの補足説明として、資料「気レ作7-2」に基づいてARIBが説明した。

和田 構 成 員 40%以上の無信号区間を設ける試験をする場合、製品を認証してもらうメーカー側が、認証業者に対して40%以上の無信号区間を設けるという条件をつけて試験をしてもらうのか。それとも、認証業者側が任意性の高い信号について試験をし、合格しなかった場合について、さらに制限をかけて40%以上の無信号区間を設ける試験を行い合格とするのか。どちら側が主体となって40%以上の無信号区間の試験を行うイメージか。

ARIB 浅井様 持ち込む側が主体となるイメージである。認証業者に持ち込む際

に、持ち込む側と認証業者とが相談する形になると考えている。

米本構成員 試験に合格すれば気象レーダーが守られるという認識なので、レーダー側としては、この形で進めていただければと思う。

川西主査 通信負荷についての説明において、今後負荷率が低下するとの予測があったが、無線LANのスピードが上がるとより大きな画像を送るというようにトラヒックが増加するのではないか。

ARIB浅井様 認識のとおり、より負荷の大きな映像等を送ることにはなると思うが、無線LANの効率性が上がるため、複合的に考えると現状のサービスに対しては負荷率が下がると考えている。

川西主査 負荷率が今後悪化することはないので、このルールが良いという理解で良いか。

ARIB浅井様 理解のとおり。

米本構成員 周波数軸について、試験手順ではレーダーの信号の軸を無線LANの中心周波数に合わせるということは理解した。その中で、実際は20MHz帯域の周波数を利用する通信システムは20MHz帯域を選出しているという理解で良いか。

ARIB浅井様 理解のとおり。

② その他

事務局から今後の予定について説明を行った。

(3) 閉会